

# 業界別分析：仕事選びの基準と辞める理由

## ～販売系職種編～

### Contents

- 〈1〉販売系職種の就業者構造
- 〈2〉コンビニスタッフ
- 〈3〉スーパー・デパート・量販店スタッフ
- 〈4〉ファッション・アパレル販売

調査方法：インターネットアンケート

調査対象：北海道・首都圏・東海・関西・九州 在住 15-34歳男女のうち、  
現在「高校生、短大、専門学校生、大学生、大学院生、アルバイト・パート、派遣社員、契約社員、無職」かつ  
「過去1年以内にアルバイト・パート、派遣社員、契約社員の仕事に就いたことがある」かつ  
「今後もアルバイト・パート、派遣社員、契約社員での就労を希望している」人

調査期間：2007年2月

サンプル数：北海道・首都圏・東海・関西・九州 合計6941名

ウエイトバック：実際の人口構成比にあわせるため、  
総務省統計局「平成14年就業構造基本統計調査」による非正規雇用就業人口に基づき、「属性・性別」ごとにウエイトをかけた

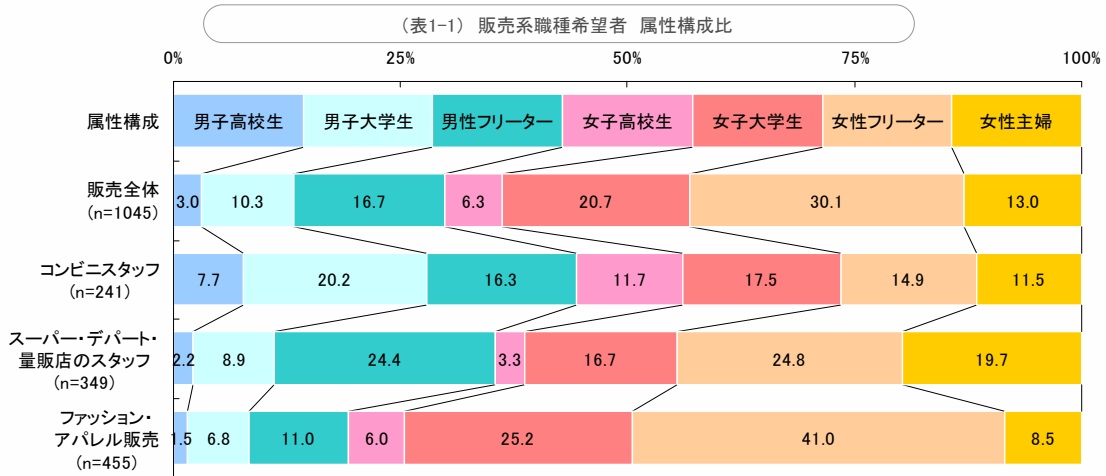
# 1 販売系職種の就業者構造

業種、業態が同じであれば、求める人材像や抱える課題も似通うもの。そこで今回は、多様なニーズを持つ販売職をテーマに、その職種ごとの課題と求職者の動向について特集する。具体的には、勤務地や時間の融通がききやすい「コンビニエンスストア」、繁忙期への対応がポイントとなる「スーパー・デパート・量販店スタッフ」、扱う商品に対する知識や接客スキルが問われる「ファッション・アパレル販売」を取り上げ、求職者の動向を探る。

## ■職種別、属性構成比

まず、今回取り上げる「販売系職種」とその構造について紹介する。今回は「コンビニエンスストア」「スーパー・デパート・量販店スタッフ」「ファッション・アパレル販売」を、販売系の職種とし、それらの職種を希望している人たちについて分析した。

販売職種全体の構成を見ると(表1-1)、男女比は3:7と女性が多い。もっとも割合が大きいのは女性フリーターで、全体の3割を占めている。さらに女子大学生も2割と高く、この2属性で半数に達している。また男女ともに、高校生、大学生、フリーターと徐々に比率が高くなっていく傾向が見られる。



## ■コンビニスタッフ

販売系職種の中ではもっとも男性比率が高く、男子大学生は20%を超えている。またコンビニスタッフは高校生男女のポイントが最も高い職種でもある。

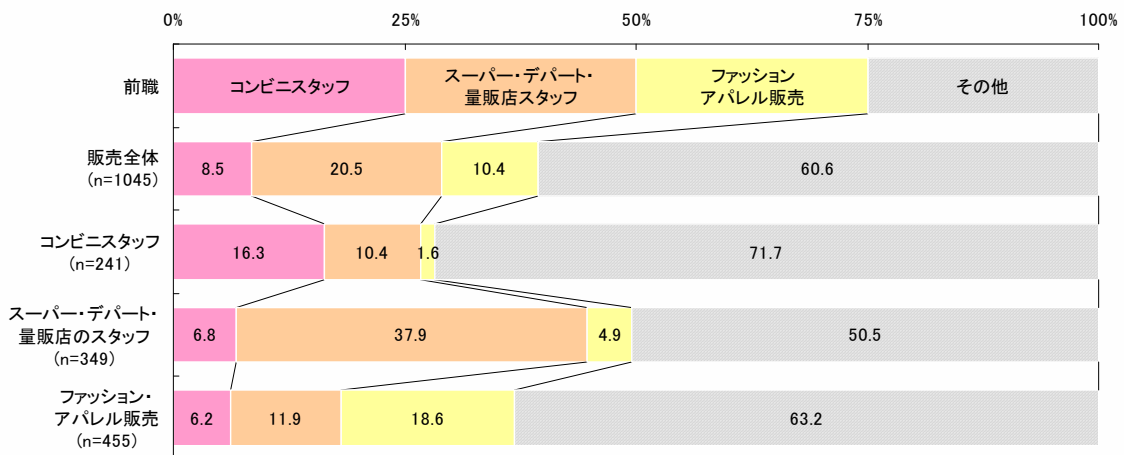
## ■スーパー・デパート・量販店スタッフ

男性フリーターと主婦の割合が高い職種。スーパーは主婦に人気、量販店は男性フリーターが多いなど、職種それぞれの人気が反映された結果なのだろう。

## ■ファッション・アパレル販売

圧倒的に女性フリーターが多く4割以上。2位の女子大学生も25%を超える。男性はトータルで2割以下と少ない。

(表1-2) 販売系職種希望者 前職



次に、販売系職種を希望する人たちの前職をみてみよう。販売系全体では、前職販売系職種の人は4割。6割は、ほかの職種からの希望者ということになる。

細かく見てみると、特に「スーパー・デパート・量販店スタッフ」で、前職も同じ職種である割合が多い。

## 2 コンビニスタッフ

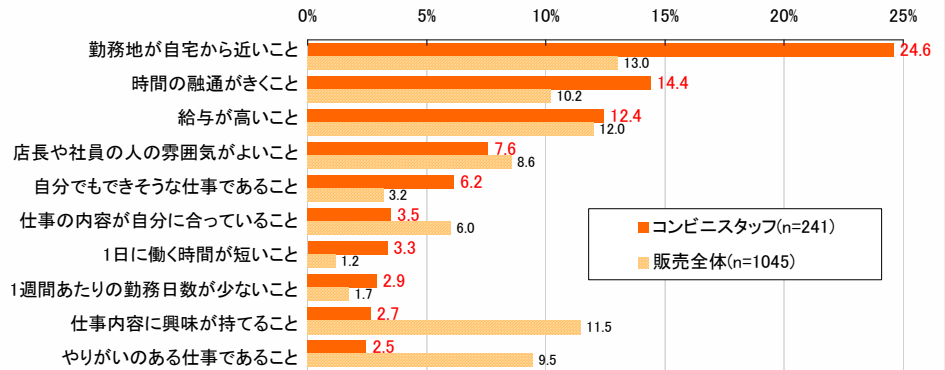
ここからは 販売系職種をもう少し細かく分解し、ひとつひとつの職種について、求職者の動向を確認しよう。

まずは24時間営業・年中無休の店舗が多く、営業時間の幅が広いコンビニエンスストアについて。オフィス街から住宅地まで、様々な場所に多くの店舗があり、求職者にとって通いやすい勤務先といえる。一方、早朝深夜の勤務や週5勤務など、気軽には働けない条件で勤務できるスタッフを確保することがひとつの課題と言えるだろう。

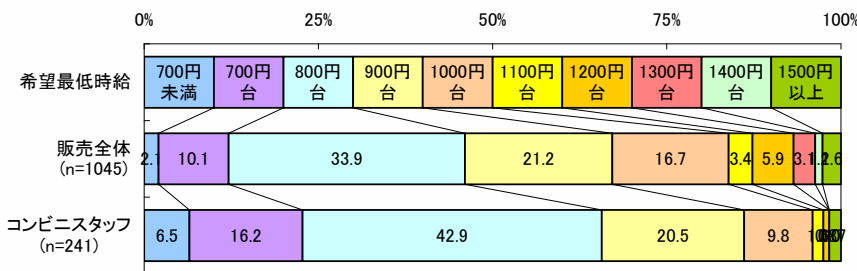
### ■仕事探しの重視点

「コンビニスタッフ」を希望する人たちが、仕事選び時に重視する項目は、ダントツで「勤務地が自宅から近いこと」。2位の「時間の融通がきくこと」と10ポイント以上の差が開いている。また、「自分でもできそうな仕事であること」「1日に働く時間が短いこと」の、販売系全体との差に注目したい。仕事内容ややりがいなどはそれほど重視されず、自分にとって働きやすいか否かを重視するという姿が見えてくる。

(表2-1) 仕事選びの重視ポイント



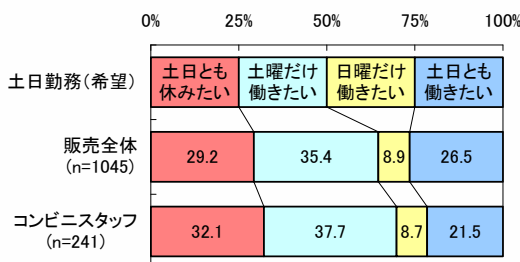
(表2-2) 希望最低時給



### ■希望最低時給

コンビニスタッフの希望時給は800円台が最も多く4割以上。販売系全体に比べて700円台や700円未満を希望する割合が多い。表2-1の仕事を選んだ際の重視点では「給与が高いこと」は3位に入っているが、後に出てくる「スーパー・デパート・量販店スタッフ」や「ファッション・アパレル販売」と比べても時給は安い傾向だ。

(表2-3) 土日勤務(希望)



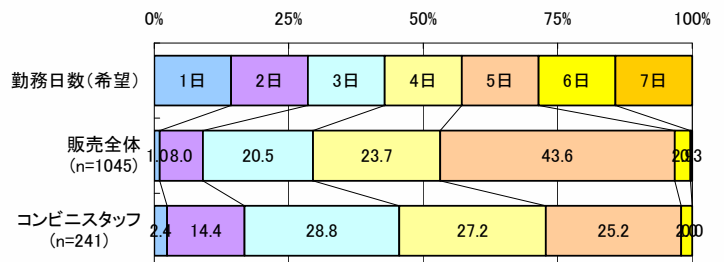
### ■土日勤務(希望)

販売系全体と比較すると、若干「土日とも休みたい」が多い。「土日とも働きたい」は少なめ。

### ■勤務日数(希望)

販売系全体と比較すると、2日、3日希望が多い。特に2日希望が10%を越えるのはこのコンビニスタッフのみだ。週5日希望者が少なく、代わりに2日～4日に分散しているようだ。

(表2-4) 勤務日数(希望)



### コンビニスタッフのまとめ

求職者からは「通いやすい」、「自分にもできそう」といった気軽さを理由に選ばれることが多いコンビニスタッフ。早朝・深夜や、週5以上の勤務など、気軽に通えない条件で働いてくれるスタッフを確保することは重要となる。「時間の融通がきく」という求職者の認知を、早朝・深夜などを利用して働ける、という提案につなげることは可能。

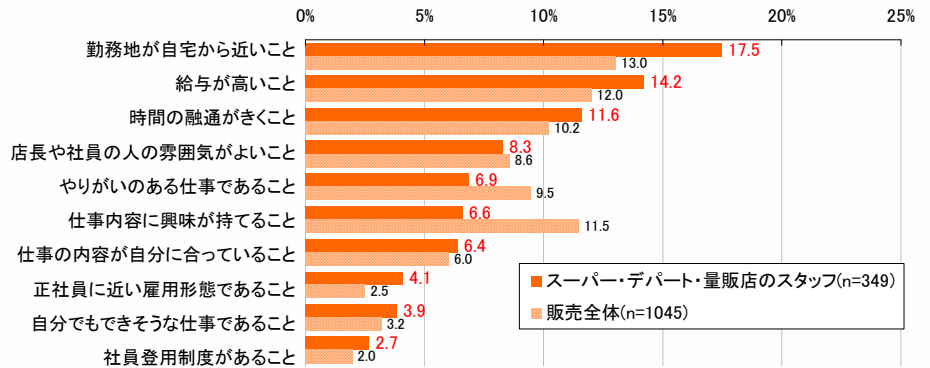
### 3 スーパー・デパート・量販店スタッフ

分布では、男性フリーターと主婦が目立った「スーパー・デパート・量販店スタッフ」。スーパーでは混雑する時間帯にいかに対応するか、量販店やデパートでは来客の多い土日に勤務できる人材を確保できるかがポイントとなる。

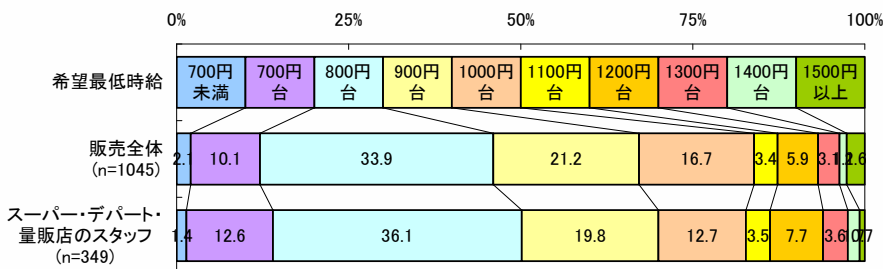
#### ■仕事探しの重視点

「スーパー・デパート・量販店スタッフ」希望者が仕事を選ぶ際に重視する項目は、「勤務地が自宅から近いこと」、「給与が高いこと」、「時間の融通がきくこと」など。「仕事内容に興味もてること」と「やりがいのある仕事であること」が販売系全体値を大きく下回ることから、仕事内容よりも時間の融通や給与によって仕事を選ぶ傾向があるといえそうだ。

(表3-1) 仕事選びの重視ポイント



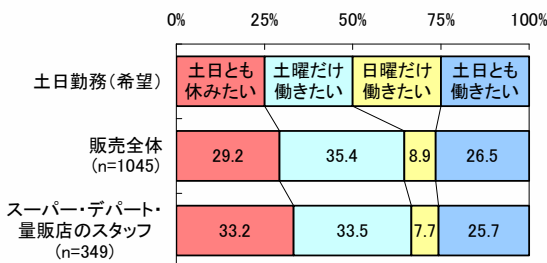
(表3-2) 希望最低時給



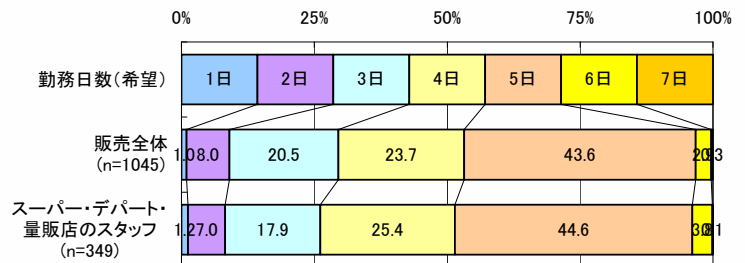
#### ■希望最低時給

「スーパー・デパート・量販店スタッフ」も、先に見た「コンビニスタッフ」と同様に800円台がボリュームゾーン(4割弱)。ただし、「1000円以上」を希望する割合も3割で、一口に「スーパー・デパート・量販店スタッフ」といっても、その希望額にはばらつきがあることが推測される。

(表3-3) 土日勤務(希望)



(表3-4) 勤務日数(希望)



#### ■土日勤務(希望)

土日の勤務を希望は、この職種特有の特徴はなく、販売系全体と同じく「土日とも休みたい」が3割程度、「土日とも働きたい」は25%程度という結果だ。

#### ■勤務日数(希望)

勤務日数も、販売系全体値とそれほど変わらない結果となった。最も多いのは「週5日希望」で4割強。ついで「週4日希望」で3割弱。

#### スーパー・デパート・量販店スタッフのまとめ

デパート・量販店では特に、土日勤務できる人員を確保する必要に迫られることが多い。対して、求職者の意識(仕事選び時に重視したポイントや現在の働き方)はというと、週4~5日の勤務を希望し、土日勤務を受け入れている人も多いなど、常に販売の現場にスタッフがいる状況は作りやすいといえる。

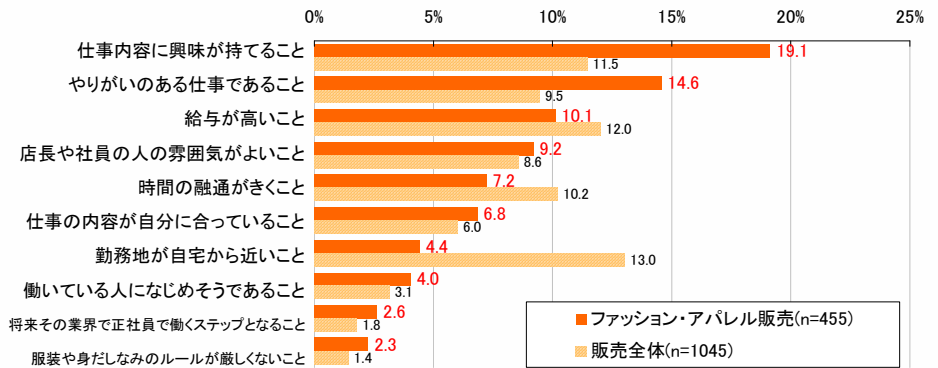
4 ファッション・アパレル販売

圧倒的に女性が多い「ファッション・アパレル販売」。前述のデパートと同じく土日勤務できる人材の確保が必要。また、扱う商品に対する知識や接客スキルが問われるため、職種や業界に興味のある人材がいれば心強い。

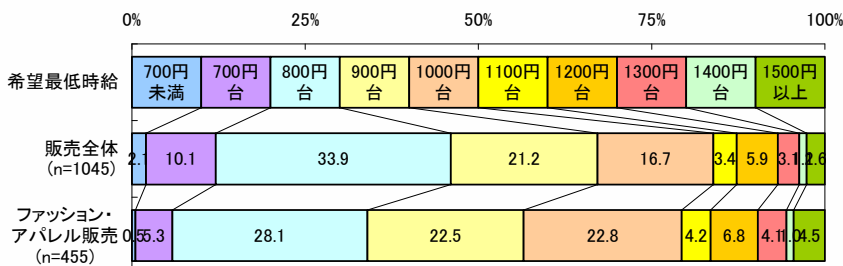
■仕事探しの重視点

「ファッション・アパレル販売」希望者が、仕事選び時に重視する項目のTOPは「仕事内容に興味があること」(19.1%)。続く「やりがいのある仕事であること」(14.6%)とともに、仕事内容へのこだわりが見える。今までに見てきた「コンビニスタッフ」や「スーパー・デパート・量販店のスタッフ」でいずれも1位だった「勤務地が家から近い」は、わずかに4%の重視度だ。

(表4-1) 仕事選びの重視ポイント



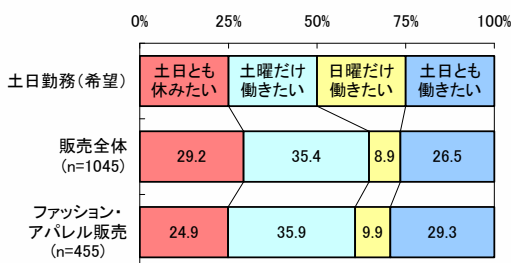
(表4-2) 希望最低時給



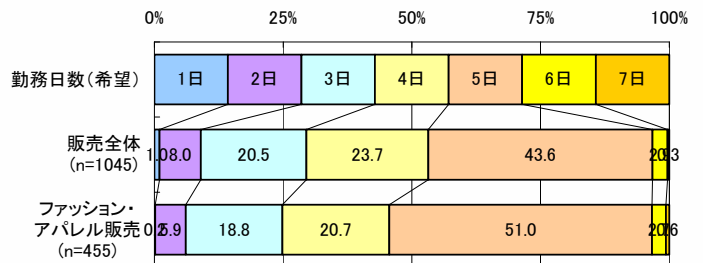
■希望最低時給

もっとも割合が多いのは、販売系全体と同じく800円台(28.1%)。しかし、1000円以上を希望する割合が4割を超え、販売系の職種のなかでは最も金額が大きくなっている。

(表4-3) 土日勤務(希望)



(表4-4) 勤務日数(希望)



■土日勤務(希望)

販売系職種と比べて大きな違いはないが、若干「土日とも休みたい」が少ない。

■勤務日数(希望)

販売系職種全体と比べて「週5日」の割合が多く、半数を超える。

ファッション・アパレル販売のまとめ

「土日とも休みたい」が最も低く、勤務日数も週5日希望が50%を超えている。また、仕事を選ぶ基準も「仕事内容に興味があること」がダントツに高く、2位も「やりがいのある仕事であること」を重視。求職者の志向と業界のニーズはあまりブレが無いようだ。